令和6年度第3回いはらっこの子育て支援会議議事録

開催日時：令和7年3月11日(火) 午後2時～3時50分

開催場所：市原市市民会館3階会議室

出席委員：船山委員、田邊委員、里見委員、小倉委員、杉井委員、藤谷委員、切替委員、鈴木委員、齋藤和夫委員、長谷川委員、武川委員、石垣委員、山本委員、土田委員、阿部委員、峯川委員（16名出席）

事務局：子ども未来部：山形部長、小宮次長
子ども福祉課：加藤課長、中川課長補佐（司会）、引田係長、竹下副主査、長嶋主任
保育課：近藤課長、後藤課長補佐、五十嵐係長、榊副主査
子ども家庭総合支援課：中條課長
子育てネウボラセンター：佐藤所長
発達支援センター：井原所長

傍聴者：なし

議題

- (1) 市原市こども計画について
- (2) 教育・保育施設の利用定員に係る意見聴取について

【配布資料】

〔事前配布資料〕

- ・会議次第
- ・【資料1-1】市原市こども計画（原案）
- ・【資料1-3】素案からの主な変更点
- ・【資料1-4】答申書（案）

〔当日配布資料〕

- ・【資料1-2】市原市こども計画原案（概要版）
- ・【資料2-1、資料2-2】教育・保育施設の利用定員に係る意見聴取について
- ・席次表

会議経過

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開会宣言 ・ 資料確認
船山会長	[あいさつ]
事務局	<p>船山会長ありがとうございました。</p> <p>それでは、これ以降の議事進行につきましては、条例第14条第1項に基づき、船山会長に議長をお願いしたいと思います。</p>
船山会長	<p>それでは、議事を開始させていただきますが、その前に、本日の会議に係る議事録の確定について、議事録署名人の指名を行います。</p> <p>本日は、「里見委員」と「石垣委員」をお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。</p> <p>本会議は、「市原市情報公開条例」に基づき、公開となりますが、本日の傍聴希望者はございません。</p> <p>本日は、議題2点となっております。委員の皆様におかれましては、会議の進行にご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。</p> <p>議題の1点目は、『市原市こども計画について』です。</p> <p>それでは、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	[資料に基づき説明]
船山会長	ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見等がございましたら、お願いします。
委員	41ページの「(仮称) こども条例の制定」について、前回の会議で「こども・若者条例」としてはどうかと提案しましたが、庁内でどのような議論があつて「こども条例」のままとなっているのか教えてください。
事務局	今回の計画を「こども計画」として策定していたこともあり、条例も仮称ではありますが「こども条例」としました。今後、子どもたちや若者たちから色々な意見を聞く中で、最終的な条例の名称にしたいと思います。
委員	<p>22ページからこどもの権利についてのアンケートやヒアリング結果が掲載されています。例えば23ページの①「自分にとって、何が一番よいか、大人は考えてくれる」という質問に対して、小学生・中学生は7、8割程度が「はい」と答えていますが、高校生になると「はい」が10%くらい少ないのです。高校生世代、若者たちの声としては、現状は低いのではないかと思いますので、その辺りを踏まえていただければと思います。</p> <p>また、32ページの(2)「意見の概要(抜粋)」の(3)に「子ども・若者は『取り残されて』いませんか?」とあり、市内の</p>

	<p>高校生、15歳から25歳までの若者を対象としたワークショップの結果が載っています。その最終発表内容の最後に「子どもの権利条約について（特に大人の）理解がないこと」とあります。</p> <p>この2つの結果を踏まえても、こどもの権利が弱いということが言えるのではないかと思いますので、引き続き検討してもらえればと思います。</p> <p>こども計画なので条例も「こども条例」ということはその通りだとは思っています。</p>
船山会長	<p>「こども」のイメージがどうしても小中学生で、ましてや日本の場合は18歳から成人という中で、たった3年間の高校生のことだけでいいのかということがあります。子ども時代からしっかりと子どもの権利条約に沿って育てられれば、若者になっても自分の権利、他人の権利が分かるようになって社会をつくっていきようになりますが、多分日本はそこが弱いということです。今の若者がすぐに親になっていくと考えれば、サイクルが薄れてしまうので、そこは、こども条例だけれども子どもに関わる人たちも含めているということ、行政の各部署で連携を取って共有することが必要だと思います。「こども条例」だから19歳の子は関係ないということではなく、子どもに関わることは次の世代をつくっていくことだと頭に入れた上で、この下に作られる多くの実施計画でもぶれないように、各部署にお伝えいただければと思います。</p> <p>他には、よろしいでしょうか。</p>
委員	(異議なし)
船山会長	それでは、答申案に移ります。この答申案は私と事務局で修正した案ですので、私から読み上げさせていただきます。
船山会長	[答申案を読み上げ]
船山会長	ただ今読み上げた答申案について、何かご意見やご質問はありますか。
委員	<p>ウェルビーイングという言葉が多々出てきますが、うちの職員にウェルビーイングを知っているかと聞くと、ほとんどの人が知らない状態でした。資料には説明書きがありますが、皆が知らないことをなぜ書くのかと思います。ヤングケアラーくらいは分かりますが、こうしたカタカナの言葉を入れないといけないのでしょうか。そういったカタカナの言葉が多く出てきますが、分かりづらくして興味をなくすより、もっと簡単にしたほうが良いと思います。</p>
船山会長	ウェルビーイングという言葉自体は、福祉の界限ではこの20年くらい言われていることかと思います。この答申については、

	<p>市から諮問いただいたものに対する私たちからの意見ですので、一般の方の目に触れることはあまりないかと思えます。市役所の方には、これを胸に刻んで事業を実施していったほしいという意味になります。市役所の方も、これから勉強することや雰囲気で行われていることもあるかと思えますので、参考にしながら考えていきたいと思えます。</p> <p>他に、ご意見はありますか。</p>
委員	<p>将来にわたって幸せな状態で過ごすために必要なものとなると、学力も必要でしょうし、ニコニコとしていられるような性格も必要だと思います。人生を勝ち抜いていくために一番必要な能力は人に好かれる能力と言われていています。東北大学の川島先生が書かれたものには、スマホの害というもの書かれていて、子どもと過ごしていても親がスマホに夢中になっているなど、インターネットの過剰利用が子どもの成長を非常に蝕んでいるという指摘があります。インターネットの利用時間が長いほど子どもたちの学力が低下するという研究結果があります。市原市もタブレットを配布していますが、学力を下げる方向に働いてしまわないかと懸念します。家族でスマホに夢中になっているときに、少なくとも子どもはその状況はよくないと理解していることが大事で、授業で言うより、講師を招いて話をしてもらおうとよいと思えます。そういったことを教育委員会で協議していただいて、親のほうも何とかする方法を考えていただければと思えます。</p> <p>それぞれが市原市を背負って立つような、ニコニコして能力もある人材に育ててほしいとの思いでこの会議に参加していますが、大人の都合を優先してしまっていると、結果としてウェルビーイングの人生にならないのではないかと考えています。</p>
船山会長	<p>今のお話は、「4 教育・保育、地域子ども・子育て支援事業の料の見込む・確保方策、質の向上について」にあたる部分かと思えます。ここでは細かい事例を挙げての答申ではありませんが、その辺りは教育委員会で教育の質の向上に向けた議論の機会をつくっていただければと思えます。この答申は関連部署にも行くと思えますので、ご意見があったことを伝えていただければと思えます。</p> <p>他にありますか。今、いくつか意見をいただきました。この答申はこの会議体からの市長に対する答申で、大雑把な形ではありますが、意見を伝えるものとして出させていただきます。</p> <p>ウェルビーイングなど横文字も含めて言葉の細かい表現については、会長、副会長、事務局にて再度検討して決定したいと思えますが、一任していただけますでしょうか。</p>
委員	(異議なし)

船山会長	<p>変更があった場合、最終案については、皆様に郵送させていただきたいと思います。</p> <p>それでは、『市原市こども計画について』は終了いたします。</p> <p>次に、議題の2点目、『教育・保育施設の利用定員に係る意見聴取について』でございます。事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	[資料に基づき説明]
船山会長	ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見等がございましたら、お願いします。
委員	昨今はほぼ3歳で入り、4歳や5歳で入ってくる人はまずいない状況で、4歳・5歳の枠を増やすのは現実的ではないと思うのですが、どうでしょうか。利用定員135人というのは令和6年の人数と思いますが、それをそのまま当てはめると、令和7年は5歳児が45人、4歳児が40人になります。新しく入る3歳児の人数は市のほうで把握されていますか。
事務局	利用定員については定員の枠であり、これがぴったりということではなく、概ねこれくらいの供給量を維持していくという考えで動いています。
委員	市原市の各地区の0歳児から5歳児の人数の表を教育委員会からいただいて見っていますが、三和地区の小学校では人数が大変少ない状況です。そうしたことを踏まえると、量の見込みの150人というのは大きく見積もりすぎではないかと思うのです。こども園になれば市のほうから回されるので、2号の子どもばかりですが、これは1号子どもも入っているのでしょうか。
事務局	入っています。1号のみです。
委員	1号のみですか。
事務局	認定こども園ではなく幼稚園なので、これからも1号のみです。
委員	定員変更は県の認可で、市原市の許可が必要なのですか。施設型給付になるということでしょうか。
事務局	<p>お見込みの通り、認可は県ですが、子ども子育て支援法により、市は、利用定員の設定に際し、審議会の意見を聴かなければならないとされています。</p> <p>また、150という数の評価ですが、先ほど言われたように多少の数の動きはあると思いますし、違う地区からの人の動きもあると思います。今回、このような新制度になったときには、ある程度幅を見込みながら、経営のことも考えられると思いますので、多少、多めにチャレンジということではあります。</p>

委員	4歳、5歳で入れる人は皆無に等しいので、3歳、4歳、5歳でどんどん増えていくという設定はおかしいと感じました。
船山会長	私の知っている事例では、今年、年中から入るお子さんがいて、年中から入る子もいないわけではないようです。また、家庭の事情などで、保育園を退園して幼稚園に行くお子さんもいらっしゃると思います。
委員	働くことになって幼稚園から保育所に入れるケースはありますが、保育所から幼稚園に行かせるというのは、ほとんどないです。
船山会長	全くないわけではないというところで、多分見込まれているのだと思います。
委員	ある程度、集団の中に入れたいということで、3歳からは幼稚園にという方はいらっしゃいます。
委員	その子を見てくれる祖父母がいるということでしょうか。
委員	そうではなく、働き方をセーブされていますので、その範囲の中でということもあります。実際に働いている時間も短いので、3歳から幼稚園にということです。
船山会長	働き方と、お子さんをどこに預けるか、どういう預け方をしていくかという選択肢の一つかと思います。
委員	今後も私学幼稚園で同じように新制度に移行するような動きはあるのでしょうか。
事務局	把握している範囲ではないのですが、少し増えていくような傾向にはあると思います。
委員	つまり、市役所による教育・保育の利用のコントロール下に入っていく園が増えていくということですか。
事務局	全国的な傾向としては、そうではないかと思います。
委員	当園は昔ながらの幼稚園としてやっていますが、こども園に移行する園が増えていって、県レベルでも施設給付など、昔の幼稚園ではなくなってきています。我々は私学助成園といって県から補助金をもらっている幼稚園です。その園が減ってくると予算配分が厳しくなってきて、あまりもらえなくなるのではないかと思います。市原市の私立幼稚園振興費補助金がありますので、それを4倍、5倍と上げていただければよい切に希望します。
事務局	今、おっしゃったのは認定こども園についてで、今回は新制度のことであり、新制度の幼稚園ということになります。
船山会長	それでは、『教育・保育施設の利用定員に係る意見聴取につい

	<p>て』は終了いたします。</p> <p>本日の議題は以上ですが、その他、ご質問、ご意見等がありましたらお願いします。</p>
委員	<p>「(仮称) こども条例」というものができた場合は、この会議体も位置づけが変わるということでしょうか。この会の目的やメンバー、進め方等が変わるという理解でよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>令和8年度に子育て支援条例が廃止されますので、審議会も新しい条例のほうに移行する形となります。</p>
委員	<p>その条例をつくる際は、また市民等を交えてつくるといことでしょうか。</p>
事務局	<p>おっしゃる通り、意見を聞きながら策定します。</p>
委員	<p>2点お伝えします。</p> <p>1つは、市内の問題や悩みがある子どもたち、子育て中の保護者、子どもに関わる全ての人がまず相談できる場所は役所や学校などですが、行政に近づけない人を助ける方法も必要だと思います。例えばパン屋、美容院、理髪店、ゲームセンターなどで行政や相談できる場所につながるタッチポイントが多くあればいいと思います。電話番号やQRコードでもいいので、シール1つあれば行政にたどり着くことができれば、できることもあるのではないかと思います。</p> <p>2つ目は、学校や保育関係の先生方の負担の話で、4年前まで20年間、保育関係に携わる中でも感じたことです。保育士の質の向上や人数の提供、金銭面のことが多く語られますが、保育士の仕事の内容も考えてみてはどうでしょうか。保育士は子どもたちの顔を見る時間が必要なのに雑務が多いような気がします。行事のための時間や家庭での時間も必要です。保育士の仕事内容が見直されれば、市原市の保育園で働きたいと思う人も出てくるのではないかと思います。保育士の働き方も多様であるべきと思うし、働きやすさも大切だと思います。また、願わくは正職員をもっと増やすべきだと思います。</p>
船山会長	<p>とても大切なご意見だと思います。子どもは保育園に行きたいと思っているわけではなく、大人の都合で保育園に預けているという前提があると思います。保育士たちは、子どもたちの生活の場として、親がいない中で何とか保育者としてご苦労されているのではないかと思います。子どもを育てる第一義的責任は親ですが、子どもに関わる大人は全て、その子が育つ環境の一部だと思います。子どもが登下校で通る家のおばあちゃんや犬の散歩をしているおじさんなど、全ての人が子どもの環境になることを意識して、子どもたちの育ちを見守っていく場所をつくっていくことが、こどもまんなか社会の実現ということかと思っています。それは、一部の人の努力や熱意では無理なこと</p>

	<p>があるので、少しでいいので大勢の力を出し合えるような世界の構築にぜひ向かっていただきたいと思います。</p> <p>他に、ご意見ありますでしょうか。</p>
委員	<p>こども計画の63ページ、主な取組の「一時預かり事業」の取組内容に「家庭において保育を受けることが一時的に困難となった乳幼児について、保育園等で一時的に預かります」とあります。もちろん緊急でも預かりますが、就労であっても私的内容であっても、一時預かり事業は未就学児の誰でも預かる、そこが一番のポイントで、一時的に困難なお子さんだけを預かる事業ではありません。就労の場合は在園で入れますので、通常はリフレッシュなどの私的理理由の方が主ですが、緊急の場合はどういう状況でも受け入れられる体制にしています。</p>
船山会長	<p>修正ということでしょうか。大まかに考えればこの文言でも問題ないということになりますでしょうか。</p>
事務局	<p>修正させていただきます。</p>
船山会長	<p>現場の声ということかと思います。私的事由での利用だけではなく、緊急性の度合いという部分では、現場で判断しなければならないつらさもあると思いますので、その辺を少し分かりやすく書いたほうがいいのかと思います。</p>
事務局	<p>おっしゃる通り私的理理由でも全く問題なく、映画に行くなど、用事ができて保育が困難となった場合という意味ですが、表現として少し配慮が足りないと思いますので、修正させていただきます。</p>
委員	<p>会の終わりに、委員からもよく「せっかくここまでやっても浸透していかないな」といった話が出ます。困窮している家庭でも裕福な家庭でも、どこに相談してよいかわからない状況です。自分の家を守ることで精いっぱい家庭がとても多く、隣のことで考えられないのです。</p> <p>35ページの(3)「こども・若者への支援の状況や課題(抜粋)」の「分野別の連携について」の主な意見に、「横のつながりがあまりないと感じる。市役所内での部局を超えた連携もあまりない。こどもに関係する色々な立場の人が話し合う場があるとよい。」とあります。とりあえず、市役所の子ども支援課の方とつながるまではいいのですが、家庭の問題になってくると、また違う部署に行くことになったりし、親もあきらめてそのまま卒業していくことも多々あります。</p> <p>計画はとても素晴らしいものですが、相談先などが誰にとってもわかりやすくなるとよいと思います。教員の立場でも、何度も情報を見ないと分からない状況です。見て分かりやすいのはとても大事なことだと思いますので、「ここをクリックすればわかる」なども1つかと思いますが、できるだけわかりやす</p>

	<p>く、みんなに浸透していく形にしていなければありがたいです。横のつながりを教育委員会だけではなく、特に子どもの安全や生命に関わることは、色々な部署に簡単につながっていくように工夫していただければと思います。</p>
委員	<p>この会議の委員である私たちがまずは一生懸命動けばいいかなと思います。ここ数年、色々な関係団体の方と連携し、今回のこども計画の準備でもヒアリングなどしてくれていて、色々盛り込まれたのではないかと感じています。市民が動けば当然変わっていくということを感じていますので、できると思います。私も結構知っているので聞いてください。市役所の取組も大事ですが、私たちが取り組むことも大事かと思っています。</p>
委員	<p>結構皆さん知らない状況です。</p>
委員	<p>そういう状況なので、私は色々なところで触れて回っています。触れて回る人が増えるといいのではないかといつも思っています。ぜひやってみましょう。</p>
船山会長	<p>私たちはまず自分の組織で広めていくことが大事だと思いますので、ぜひ皆さんに広めていただければと思います。</p> <p>先ほどの相談支援に関しては私も感じており、今回の答申の3番に入れています。役所の中でも福祉総合相談センターができて、かなり横断的になっているようです。その仕組みも、直接そこになのか、各課部署からそこになのか、相談を段々とふるいにかけて絞られていく体制になっていくようです。ここにある「誰一人取り残されない社会」とは、「助けて」と言える社会で、隣にいる人に「助けて」と言える社会をつくることがとても大事だと思います。ぜひ困った人がいたら「どうしたの」という声かけと、自分ができなくても、この中の誰かにつながると、そこからまた新しい相談先があるのではないかというお話がありました。私たちがそういう風が変わって、それぞれが10人に話せばかなりの人が変わっていきます。そういう嵐が起きたらいいと思います。</p>
委員	<p>63ページの(1)「多様なニーズへの対応」の「背景と課題」のところに、「子育てと仕事について、両立できたという市民の割合は低下しており」とあります。知人の保育士さんは子どもができて最初はおばあさんが見ていましたが、熱が出るなどして見られないとのことで子育てを優先しました。子どもが大きくなって戻ろうとしましたが、空きがないと採用されずに専業主婦になっています。また、健康診断で引っかかって病院に行かないといけないけれども休めない、他の保育士にも迷惑をかけてしまうので頼むに頼めないと引き延ばしている人もいます。できるだけ、そういう方が気がねなく病院に行き、元気で子どもを見られるような、また復職できるような市の体制に</p>

	して働きやすい環境づくりをしていただければと思います。
船山会長	大事な視点だと思います。今回の答申の5番「子育て家庭への支援の充実」という中にそのような内容を書かせていただきました。とても具体的な事例でしたが、原案についてはこのままの形で、この答申がこういう思いであることを分かっていたら、市役所内でその思いを共有していただければと思います。役所に任せるだけではなく、私たちも協力し合っていきたいと思っています。
事務局	先ほどの山本委員のご意見について、補足させていただきます。計画書にも答申にも書いていますが、生の声として、私どものほうで吸収して改善していければと思います。現場での働き方の改革というのは、支援策や給付等以外に現場のほうが変わっていかなければいけない部分が非常に多いと思います。今後、講師をお願いして意見交換会等を開催していきたいと思っています。ご意見は承りました。ありがとうございました。
委員	答申の4番で「教育・保育、地域子ども・子育て支援事業の量の見込み・確保方策、質の向上について」とあります。保育の一部として学童保育での支援の質の向上や処遇改善、待遇向上というところを、私どもとしてはお願いしたいと思っています。学童保育の支援員は若者から高齢の方まで、勤務条件などを整えてそれぞれのニーズに合った仕事をしていただいています。やはり正職員という形ではないことが一つネックなのかと思います。正職員で働ける、また、その職を目指せる立場になっていけるといいと思いますし、雇用の創出にもつながっていくのかなと思います。そういうところも保育課と一緒に考えながら進めていければと思います。よろしくをお願いします。
船山会長	学童保育こそ子どもの居場所なのかなと感じます。他にはよろしいでしょうか。
委員	先ほど、「保育士をやりたいけども」という話があり、身につまされる思いです。私自身も保育士として自分の子どもを持ったときに、周りの人に、自分の子どもを見ないで人の子を見るのかと言われました。特に自分の子どもの具合が悪いときなど、他の人に預けて仕事に行くことも多々ありましたが、同じようなことが保育士の仕事だけではなく、たくさんあると思います。保育現場にいと、子どもの具合が悪いけれども仕事を休めずにお母さんの心の余裕がなくなることもたくさんあります。各家庭が安定してくると、私たちの仕事も軽減される部分がたくさんあると思うのです。私たちの職種だけではなく、全ての子育て世帯が、もう少しゆとりがある子育てができるような社会になっていくと、もっと子育てがしやすくなると思います。最終的には、子どもの居場所が各家庭に戻るというのが一番理想では

	<p>ないかと思います。そうすると私たちの仕事も余裕が出てくるのかと思います。</p>
委員	<p>役所がこれだけ努力しているのに、どうして子どもがどんどんよい子になってくれないのかという思いがあると思いますが、親からすると、役所は努力不足ではないかという意見が出てくるかもしれません。私が心がけていることがあり、批判ばかり受けて育った子は非難ばかりする、敵意に満ちた中で育った子は誰とでも戦うということがあります。一方で、励ましを受けて育った子は自信を持つ、心が寛大な人の中で育った子は我慢強くなるなどがあります。子どもを正しく育てていくということは、結局、大人側の問題なのです。役所は大人へのアプローチも考えてもらったほうがいい気がしています。</p>
委員	<p>子どもたちが参加するイベントが非常に減っていると思います。若葉地区では子ども会が主催してスキースクールに連れていっていましたが、コロナ禍を経て開催する意欲も下がり、人数も少なく採算も合わない状況です。また、センターの市民祭りが大きくなればなるほど、子どもたちが楽しんでいた地区の神社のお祭りなどがなくなっていった状態です。</p> <p>こういうときこそ子どもたちのために、子どもたちしか入れないようなお祭りなどが必要だと思います。小学校などを使って簡単なものでいいので、一生に一度くらいそういうことがあってもいいと思います。このままだと親がどこかに連れていってくれば色々ありますが、そうでない子は家でゲームばかりして楽しみがないと思います。いいことをしたら点数を付け、点数が多ければ最後に200人くらいバスでどこかに連れていくなど、何かおもしろいことをしたほうがいいのかと思います。本当に「こどもまんなか社会」と言うのであれば、子どものお祭りなどがあってもいいと思います。</p>
船山会長	<p>私も賛成です。楽しいことというのはわくわくします。子どもは何もなくてもわくわくしているはずなのに、なぜこんなに下を向いてしまっているんだろうという面もあります。私たち大人でできることがあればやってみたいと感じました。</p>
委員	<p>子どもも大人も子育て世代の人たちもみんなでわくわくできるようなものがあればと思います。今、私自身は高校生や大学生の若者たちと一緒に色々な活動していますが、大人が決めて活動していただくだけではなく、当事者が自分たちで考えて、若者たちにある程度任せていくことが大事だと感じます。</p> <p>例えば、サンプラザの10階で理想の自習室を今年度から始めていて、1日5人から10人程来ますが、運営している高校生や大学生を見ていた中学3年生の子たちが、「来月から高校生になるのでスタッフになれますか」と言ってくれたりします。大人</p>

	<p>を見ることで学ぶことも多いと思いますが、若者は若者同士でお互いに学び合います。中学生がそう言ってくると、高校生、大学生も、1年間運営してよかった、となります。そうして成長し、進学や就職で市原から出てしまうかもしれませんが、そういう経験をした若者が増えていくと、将来的に市原に帰ってくるかもしれません。もしくは就職先の選択肢が少ないかもしれないけれども、市原に残る人が増えてくるのではないかと思います。普段、活動していて、そういう実感があります。口酸っぱく言って申し訳ないですが、若者の支援の部分も充実させていくと、10年後、20年後の市原市の未来は少し明るくなるのではないかと思います。</p> <p>また、子育て支援会議も新しい体制をつくるのであれば、委員に若者がもう少し入ってくるとか、こども条例を検討する委員会の中には若者や子ども委員なども入れて一緒に大人と話合っていく、そういう体制が必要ではないかと思います。</p> <p>部署同士の連携も大事と思いますが、市役所と市民、もしくは民間の事業者の連携がより進んでいく、そういう連携をどうすれば整えていけるかに関しても、こちらの会議などで皆さんと一緒に議論していけるといいのではないかと思います。</p> <p>あとは、こども計画はまた冊子になると思いますが、こういう素晴らしい計画がどうすればもっと広まるかという話もありましたので、例えば、冊子の中に入れるか別にするかはさておき、困っていることやニーズに応じて計画の中身が検索できるような仕組みが考えられます。「索引」としてこの中に盛り込むのか、別でチラシかホームページ、SNSなどで展開するのかという点がありますが、このこども計画をどう発信していくか、アイデアを議論するとよりよい計画の実行ができるのではないかと思います。</p>
船山会長	<p>今日は専門家の方も来ていただいておりますが、この計画やこの会議について、別の視点でご意見があればお願いします。</p>
委員	<p>全く違う観点で、要望レベルの話です。他の自治体でも、今、相談の程度の差については本当に難しいという話があり、私的なものなのか本当に困難事例なのか、判断のしようがない所です。他自治体の例では、相談は何でも受け付けますという場があると動くらしいので、内容は問わず、とにかくここに来れば意見を聞きます、相談に乗りますという場を、これは私的企業では難しい部分かと思いますが、公的な部分で設立の方向を検討していただけるといいなという要望です。</p>
委員	<p>私は、元は小学校の教員で、今日のお話を聞きながら思ったことがあります。子ども委員も参加してはどうかなど様々な話がありましたが、大人がお膳立てして子どもは受け身というのはどうかと思っています。自己実現、社会参画は子どもが関わ</p>

	<p>ってこそ自分で身につけるもので、お祭りをやって「あげる」のではなく、子どもたちが自主的に関わって、できたという経験をすることが大事ではないかと思います。周りが色々なことをバックアップするのはいいのですが、子ども扱いするのではなく、自分が関わったら市原市が変わっていったとか、地域の役に立ったといった体験が必要ではないかと思いました。</p>
船山会長	<p>最後の会議が一番よいものになったのではないのでしょうか。他には、よろしいでしょうか。</p>
委員	<p>(意見なし)</p>
船山会長	<p>それでは、以上をもちまして、本日の全ての議事を終了いたします。 ご協力ありがとうございました。 それでは、事務局に進行をお返しします。</p>
事務局	<p>長時間にわたりご審議いただきましてありがとうございました。本日いただきましたご意見を十分に踏まえまして、今後も計画的に事業を推進してまいります。 それでは、これもちまして、令和6年度第3回「いちほらっこの子育て支援会議」を終了いたします。</p>